

栃木県出土縄文早期土器の 岩石学的手法による胎土分析

Petrographic Analysis of Early Jomon Pottery from Tochigi Prefecture, Japan

河西 学

KASAI Manabu

はじめに

- ① 栃木県の地質概要
- ② 分析試料・分析方法
- ③ 栃木・福島地域の河川砂の特徴
- ④ 縄文早期土器胎土の特徴
- ⑤ 土器作りと土器の移動

おわりに

【論文要旨】

本研究では、栃木県内の4遺跡から出土した縄文早期井草式・夏島式土器を対象として薄片による岩石学的胎土分析を行い、関東地方河川砂との比較により土器の原料産地推定を試み、当時の土器作りと土器の移動について、従来の草創期土器の分析事例と比較検討した。

その結果、宇都宮市内の宇都宮清陵高校地内遺跡・山崎北遺跡の井草式では、変質火山岩類を主体とし安山岩・デイサイト～流紋岩を伴う岩石鉱物組成の土器が含まれ、これらの組成が栃木県中央部の河川砂の組成と類似性が認められることから、地元原料を用いた土器作りが推定された。真岡市市ノ塚遺跡の全試料と山崎北遺跡の一部の井草式では、花崗岩類主体の岩石鉱物組成を示す土器から構成され、花崗岩類分布地域に原料産地が推定され、土器あるいは原料として運び込まれた可能性が考えられた。花崗岩類の原料産地候補地は、筑波岩体周辺が有力であるが、山崎北遺跡の場合足尾山地などの小岩体についても可能性が残る。小山市間々田六本木遺跡の夏島式は、変質火山岩類が多く花崗岩類・珪質岩などを伴う組成を示し、原料産地が栃木県中央部地域に推定された。地元原料を用いた土器作りは、宇都宮清陵高校地内遺跡・山崎北遺跡・間々田六本木遺跡などで認められる一方、市ノ塚遺跡では認められない。井草式・夏島式の花崗岩類主体の胎土は、千葉県内でも確認されることから広域に移動していた可能性が推定されるが、各遺跡内の胎土組成の多様性が乏しく遠方に原料産地が推定される胎土がほとんどないことから、他の胎土の土器の移動頻度は低調で、移動距離も小さいと推定された。

【キーワード】 土器胎土分析, 岩石鉱物組成, 縄文早期, 井草式, 夏島式, 栃木県